

“Coffee break Talk. 2 2020 に想う...”

支部長 今林 光秀

JSCA 九州支部会員の皆様こんにちは。

コロナ禍に見舞われた2020年も残り僅かとなりました。皆様それぞれにとっても難しい1年間であったのではないかとお察しします。来年こそ良い年を！と簡単に言うことができない、なんとも言いようのない年の瀬を感じています。そして、また来年も2020年があると思ってしまうような不思議な感覚も抱えています。



[前回掲載写真のカフェでカプチーノにお遊び]

でもそんな2020年にも良いことがあったのではないかと、些細なことに喜びや幸せを感じることはできたのではないかと、と明るく前向きに考えたい自分がいます。

スペインで良く言われる言葉に、「世の中何が起こるか分からない！」があるそうです。「何があるかわからないから日々をしっかりと大切にしよう」と日本人なら考えがちですが、実はスペインでは、「今はうまくいかなくてもいつか必ず良いことがある！」だそうです。素晴らしいポジティブ思考！私も何度かスペインへ行ってこの精神を感じましたが、ただお気楽なラテン系と笑うことはできず、見習うべき“強さ”と“やさしさ”があると学びました。順調な時は調子に乗って深く考えることをおろそかにしがちなのに、苦境になったとたんに自らを見失いそうになり、それでも何とか逃げないように頑張ってきた自分にとっては、お手本としたい“強さ”と“やさしさ”です。

コロナ禍の中で、つい自分もネガティブな気持ちになってしまいそうですが、未来へ向け自分なりの光や希望を抱いて“強く”そして“やさしく”ありたいと思います。いつかコロナも終わり戻るだろうと漠然と日々を過ごすのではなく、普通でない時だからこそ普通でないことにチャレンジできるのではないかと。何も大きく背伸びするのではなく、ちょっとだけ今よりも成長できればと想っています。2回目となったCoffee Break Talk.もコロナ禍がなかったらやっていたかとも知れないと考えると、自分にとっての小さなチャレンジなのかも知れません。コロナ後の“あるべき姿”をさらに見つけていきたいです。

また、ソーシャルディスタンスで物理的な距離は確保となりますが、「こころの距離」はこれまで以上に“やさしく”ありたいとも想っています。人のための建築空間を創造する私たち構造技術者にとっても、これはすごく大切なことなのではないかと考えます。



左はスペインのコルドバにあるメスキータの内部、アーチが寄り添った“強く・美しく・やさしい”空間！2014年の正月に念願かなって体感して来ました。ひとが空間に幸せを感じることができる建築って、やっぱり素晴らしいなと想いました。

< 2020年12月26日 今日もCoffeeが美味しい。 >